

INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニュースレター

1992 10.1

16

情報知識学会事務局 発行 〒101 東京都千代田区和泉町1番地(凸版印刷㈱内) TEL03(3835)5550 FAX03(3839)6061 ISSN0915 1133

国際会議に於ける伝言サービス

奈良大学社会学部 西脇 ニー

一昔前までは国際会議における伝言といえば、参加者が数百人までは個人別の伝言箱を用意できても、それ以上となると伝言板を設置するしかなかった。8年前のモスクワでの7千人の会議では2m×10mのボードが6面準備され、氏名のアルファベット別に仕切られていた。しかし、利用者の自主性に任せたままで整理する人がいないため、混乱を来して効率の悪いものとなっていた。近年では多くの学会に於て、伝言を窓口で受け付け、伝言の有無をディスプレイに表示する方式が試みられている。

先般、国立京都国際会館で開催された万国地質学会において、パソコンLANを利用した伝言ブースの企画と運営を担当した。今回は会議期間中だけの仮設システムという制約があって、以下のようなものとなった。

ハードとしては、伝言ブースにサーバー1台、入力端末2台、検索端末3台の合計6台のパソコンを置いて、これをLANで接続すると共に、別棟(展示会場)および5階にそれぞれ検索用端末を1台設置した。ソフトは他目的の既存のものを流用し、伝言の有無をディスプレイ上でスクロール表示する、個人が端末で検索できる、短文の伝言ならばコンピュータに入力できるようにすること、などの改良を行った。自分が発信した伝言が受け取られたかどうかを確認できる、不要になった伝言を容易に取り消すことができる、などの効用がある。運用面では、専用のラベル(糊付け加工、ミシン目加工)を伝言を入れた封筒の表面に貼ってもらい、引き渡した時にラベルを切り離して受領証とする方式を採用した。伝言は引受順に番号をつけ、番号順に棚に整理した。検索は、表記法の違いや入力ミスによる検索漏れを防ぐため、姓のアルファベット表示の前方一致による検索とした。要員は、責任者1名、アルバイト5名であったが、会場外からの電話による伝言依頼と検索にも対応した。

利用実績としては、参加者(同伴者を含む)4千人に対して、入力約2500件、引き取り約1800件、引き取り率約70%であった。運用の初期段階では、ボードに伝言を貼り付けようとする人にシステムを説明する必要があったが、数日後にはその必要はなくなり、定期的に検索に来られる人も多くなり、全体として我々のシステムが受け入れてもらえた。英語の読めない相手への伝言だからどうしてもボードに貼らせて欲しいとの依頼があり、数件だけ例外的に貼ってもらったが、結局最後まで引き取られなかった。(次頁へ)

目次

国際会議に於ける伝言サービス	1	材料設計の新しい方向に関する国際シンポジウム	8
「コピーライト・シンポジウム」開催のご案内	2	総会報告事項	9
SGML What is ICA?	3	学会誌紹介	14
学会紹介 情報処理語学文学研究会	5	「第1回人工物工学シンポジウム」のご案内	15
学会カレンダー	7	情報知識学会通信	16

国際会議に於ける伝言システムとしては、今回のものは初歩的なものでしかない。光ファイルによる伝言の入力、電話およびファックスからの自動受付、電子メールへの対応、などの課題が残されているが、今回のような仮設システムでは十分なことができない。会議場として常設のシステムであれば、相当の投資をしても十分にペイするであろう。全国各地で国際会議場建設の機運があるが、その基本構想で情報化への配慮をお願いしたい。

今回も会議直前になって、コンピュータを全く使えない人がいるのだから我々のシステムだけでは機能しないのではないかと危惧が出され、一方的に従来のボード貼り付け方式を併置させられるという屈辱を味わったが、結果的には我々のシステムは予想以上の成果をあげ、ボードは無用であった。ここ数年間における社会の情報化の進展がこのような危惧をすでに過去のものとしていることが実感させられた。

『コピーライト・シンポジウム』開催のご案内

---テキスト・データベースの著作権---

新しい電子メディアの登場と共に著作権を巡る問題はますます複雑になっています。「情報知識学会」では内外からの御要望に答え、文学や哲学のテキスト・データベースのコピーライトを中心としたシンポジウムを開催することになりました。

日本のテキスト・データベースの作成やサービスが欧米に比して遅れている原因の一つにコピーライトの問題があると思われます。例えば、「翻刻したものを電子化する場合と、校訂本をもとにした場合では権利はどう違うのか?」、「手で入力した場合と、OCRを使った場合で差があるのか」等、日頃から色々疑問に思っておられる方も多いのではないのでしょうか。一方海外では商用・研究者用を問わずテキスト・データベースの開発が盛んですが、コピーライトはどのように処理されているのでしょうか?

今回は、テキスト・データベースのコピーライトに焦点をあて、様々な角度から広く討議をしたいと思っています。

御出席は、『岩波古典文学体系100巻』のテキスト・データベースを作された国文学研究資料館の安永尚志氏、既に会員同士で日本の古典テキストのFDによるサービスを開始している「情報処理語学・文学研究会」（詳細は本号紹介記事を御参照下さい）事務局長の内田保広氏を始め、著作権を専門に扱っておられる弁護士や関係団体の代表を予定しています。

その他オブザーバーとして各出版社の出席も調整中です。

なお予想される様々な問題の交通整理には本学会の理事であり又、著作権審議会専門委員、マルチメディア小委員会委員、通商産業省ニューメディア・アドバイザー等を兼務されている新潟大学法学部教授の名和小太郎先生にお願いしております。

日本では著作権問題について専門家も交えた公開のシンポジウムは始めてのことです。コピーライトに関心のある方々の御出席を歓迎します。

日時： 1992年 12月 10日（木） 午後

場所： 凸版印刷（株）本社 1階 フロア

主催： 情報知識学会

（時間・プログラム等の詳細は「I&Kニュース」17号に掲載されます）

1.はじめに

電子化された異なる表現形式間の変換プログラムの作成という仕事は、複雑でかつ退屈なものである。the Integrated Chameleon Architecture (ICA) は、このような仕事を助けるために開発されたプログラム生成ソフトウェアアーキテクチャである。ICAはUNIX上でXウィンドウシステムを用いて開発されたグラフィカルなユーザインタフェースを持つツール群である。そのベータリリース版はOhio State Universityからanonymous ftpにより入手可能なPDSである（著者の知る最新版はリリース1.3である）。

本稿では、ICAプロジェクトの目的を明らかにするために、広範で多様な電子化データ表現の世界におけるデータ変換の問題について述べる。

2.ICAで解決したい問題は何か？

一般的に、データ変換の問題はとても難しい。電子化されたデータの表現形式には様々なものがある。たとえば、ある一つの電子化ドキュメントでも、1)テキストの論理的構造に関する情報を持ったタグが埋め込まれたテキスト、2)テキストを整形したり解釈したりする手続きを表すコマンドが埋め込まれたテキスト、3)テキストを整形するための制御コードが埋め込まれたテキスト、4)何も埋め込まれていない純粋なテキスト、のように様々な表現形式で表される可能性がある。また、この同じ文書が、使うツールの違い（たとえば、ページレイアウトアプリケーション、ハイパーテキストアプリケーション、文書スタイル分析アプリケーションなど）により異なる表現形式で表されることもありうる。

3.ICAは自動データ変換で解決する！

情報交換の問題に対する解答は複数存在

式で表されることもありうる。

同様に、オブジェクト(表現したい対象)の違いにより、表現も様々になる。たとえば、数学オブジェクトは、 $\int$ や Σ のような特殊な文字を使ってはじめて表現できる。さらに、木構造のようなもつと抽象的なオブジェクトを表現したいときもある。一般的には、このような様々なオブジェクトの任意の組合せ（たとえば、数式をノードとして持つような木構造など）を表現することになる。データ変換の問題に対する適切な解答を得るためには、現存する電子化データ表現の様々な形態について、形式的あるいは抽象的で普遍的な表現形式の分類に基づいた高度な理解が必要である。データ表現そのものをこのように深く理解しない限りは、データ変換の問題の普遍的な理解はできないと考えられる。

電子化データは内包的なデータモデルと関係付けられて作られるものである。データモデルとは、電子化表現に記述する「データ」そのものとデータに対する命令である「コード」の体系をどのように構築するかという方法である。このようなコードをタグとかマークアップと呼ぶ。タグにより、原稿の著者や表題は本文と分離して認識され、章や節の始まりが指定される。ここからは、LaTeXとtroffを例にとって説明する。図1はLaTeXのために用意された原稿であり、図2はtroff用にタグ付けされた原稿である。そして、両者の内容は等しい。

たとえばもし原稿を用意する人がLaTeXを使っているのに出版社がtroffしか使えない場合は、情報交換の問題が生じる。

する。原著者か出版社が原稿全体を入力しなおしたり、マークアップだけをLaTeXからtroffに直したりするのは、二度手間にな

ってしまう。

また、これらの作業では原稿を正しく理解し置換しなければならないので、『両方の』マークアップを熟知した特殊な技能者が必要となる。

そこで、コンピュータを用いた自動変換が有力な手法として注目されることになる。理想的には、変換プログラムはLaTeXコードからtroffコードへ自動的に変換するのが望ましい。また、一般的には、非常に多くのマークアップが存在するので、多くの種類の変換プログラムが簡単に生成できるようでなければならない。

カメレオン研究プロジェクトにおけるデータ変換に対するアプローチは、無数に存在する表現形式の中で似たような構文や意味を持つオブジェクトに焦点を絞ることで問題の複雑さを制御するというものである。ICAは、このように制限された部分集合に対して変換プログラムを生成し、誰でもが手軽に使えるように、形式的モデルとデータの抽象概念に基づいて設計 / 実現されたデータ変換アーキテクチャである。

ICAはユーザの書いた抽象度の高い仕様をもとに変換プログラムを自動合成する。よって、しばしばエラーの発生の原因となるプログラムの記述や保守は不必要となり、生産性も向上する。また、ICAでは変換プログラムの仕様の完全性と変換されたデータの正当性に重点をおいているので、完全に正しいデータ変換プログラムを開発することができる。

ICAを使うためには、文脈自由型文法や正規表現に関する初歩的な知識が必要である。その他には、もちろん、変換したいデータ表現そのものについての知識も必要である。

4. おわりに

本稿ではICAの研究の動機や目的についてのみ述べるに留まったが、次号ではデータ変換プログラムに関する議論を展開しつつ、ICAアプローチにおける変換プログラムの作成手法を明らかにしたいと思う。SGMLとICAとの関係についてもおいおい述べてゆきたい。(続く)

```
\documentstyle{article}
\begin{document}
{\LARGE \raggedright Simple Title} \\\ \\\
\today \\\
\\
This is the first paragraph of the sample document.
```

```
\begin{figure}[h]
\caption{This is the figure.}
\vspace{2in}
\end{figure}
This is the second paragraph.

This is the third paragraph, and so on \ldots
\end{document}
```

図1 LaTeXのマークアップが埋め込まれた原稿

```
.TL \" title
Simple Title
.PP \" paragraph
This is the first paragraph.
.KF \" start a figure
.sp 10 \" space
.ce 1 \" center
This is the Figure.
.KE \" end a figure
.PP \" paragraph
This is the second paragraph.
.PP \" paragraph
This is the third paragraph, and so on ...
```

図2 troffのマークアップが埋め込まれた原稿

当研究会の正式名称は、情報処理語学文学研究会(Japan Association for Literary and Linguistic Computing 略称JALLC)という。

1986年6月5日に、第1回準備会を行って以来、研究会設立の準備を進め、1987年1月24日に正式発足。第1回研究会・総会を開催し、同時に、会報1号を発行した。その趣旨を会報1号の内田保廣氏「情報語学・文学研究会設立準備主旨説明」から抜粋する。

(前略)……その結果にいたるまでに作成した多くのデータは、実はまだ他の研究に利用する事が可能なのである。これはコンピュータを利用して研究活動を行う場合の最大の効果であるはずだ。……

(中略)……これを紙の上に印刷して、公開する場合には問題は少ないだろう。かりにフロッピーの俣で流通したらどうなるだろうか。受け取った側は、それを自由に加工することが出来るし、訂正も、増補も出来る。紙の上で流通させるよりも付加価値がぐっと増すのである。しかし、一方、これを利用して、全く別のシステムを作成して、自分の業績とする人も現れるかもしれない。もっと単純な例をいえば、なにかの作品を一生懸命入力したとして、そのフロッピーをもらった人がそれに少し手を加えて索引にして出版してしまったとする。作成者はその苦勞に見あうものを何も手にすることが出来ないのである。

ここには研究者にとって著作権とは何かという従来からの問題が存在している。同時に、データ作成が今までの研究作業とは異なった価値と苦勞を持った為に、さらに複雑化してしまったのである。だからといって、研究者が相互にデータを

全く閉鎖してしまったら、少なくとも国語・国文の世界では、重複データが山の様に出来上り、多くの時間と労力が無駄にされてしまうだろう。

ここには、既に、現在コンピュータを利用する人々が抱えている問題が提起されている。こうした事柄を見越した上で、会は発足したのである。

その後、十一回の大会を開催し、十一号の会報を出し、また、「MS-DOS講習会」や「DOS上のTool類講習会」をも行った。特に、1989年12月発行の会報6号から、フロッピーディスクの形で発行した。それも、最初は5.25インチ2DD(次に2HDに変更)だったのが、11号からは、郵送費の低下をねらって3.5インチ2HDに変更したのは、パソコンの流通媒体の変化を明示している。

活動の理念は、文科系研究者が個人レベルで使用しているコンピュータに関して、相互に情報交換をする場があれば、より有効な利用方法が見いだせるかも知れないということであり、また、同一のデータの重複入力回避すべきだという観点から活動を行っている。

- (1)研究に関連したパーソナルコンピュータの利用方法に関する情報交換。
- (2)個人が入力中のデータについての報告、及び作成されたデータの相互利用。
- (3)データ共同作成及びコンピュータ利用の共同研究の呼びかけ。

特に、二番目に関しては、「情報処理語学文学研究会テキストアーカイヴ」として、会員の作成した機械可読テキストを希望する会員に配布している。以下、1992年7月1日時点での『配布可能な「機械可読テキスト」一覧』をまとめて示す。

古相正美

「近世御会和歌資料」データ。近世において御会和歌の開かれた年月日、歌会名を記したもの。多田南嶺関係論文テキスト、六種類。

広瀬敏之

源氏物語の中の和歌の一部およびその品詞分類。白子福右衛門著『源氏物語全釈双書』加藤中道館(各帖については全釈)に拠る。

木越 治

明治以降の上田秋成に関する研究文献目録。従来のどの目録よりも網羅的。1992年3月現在の最新データ。

『おくのほそ道』の本文。上野洋三編『影印奥の細道 付参考図集』(和泉書院、1980年4月刊)元禄版本(西村本=素龍清書本の模写と考えてよい本文)の影印本。

『春雨物語』の秋成自筆本の本文(文化五年本は含まず)。

上田秋成の「ますらを物語」の本文。中村幸彦編『天理図書館善本叢書 和書之部<第26>秋成自筆本集』(八木書店、昭和50年7月刊)。

金沢女子短期大学電子文庫(91年版)。以下の作品の本文データ。

『西山物語』(綾足)・『本朝水滸伝(前編)』(綾足)・『本朝水滸伝(後編)』(綾足)

『すずみ草』(綾足)・『後編はしがきぶり』(綾足)・『歌文要語』(綾足)・『雨月物語』(秋成)・『玉櫛筒』・『玉箒木』・『玉すだれ』・『英草紙』(庭鐘)

高橋明彦

岩波古典文学大系本「上田秋成集」所収『膽大小心録』人物索引。

高木文雄

漱石の韻文(和歌、新体詩、漢詩、俳句)のテキストファイル。

高木 元

近世末期の小冊子である所謂「切附本」の書誌書目年表。

中本型読本『敵討連理橘』(容楊黛作、安永10年刊)の翻刻テキスト。

国会図書館蔵「旧幕引継文書『類集撰要』巻46」の翻刻テキスト。

曲亭馬琴の黄表紙の処女作「盡用而二分狂言」に関する本文注釈と解題。

當山日出夫

伝行成筆御物本(影印、二玄社)を本行とし、岩波古典文学大系・新潮古典集成の2種の校訂本文を参照した「和漢朗詠集」テキスト。

高崎一郎

表記変換MIFESマクロ集「ことだま」(略字↔正漢字;現代仮名遣↔歴史的仮名遣;振り仮名つけ;旁による漢字検索)

土田衛

日本戯曲全集、歌舞伎台本集成(16巻迄)、その他の翻刻台帳の役名索引。TOS-WORD(東芝のワープロ)からMS-DOSにコンバートしたテキストファイル。

東條訓子

歌舞伎役者である五代目松本幸四郎の出演年表、外題、役名、劇場名等。

内田保廣 船戸美智子

『世界綱目』索引。底本は『歌舞伎の文献シリーズ6 狂言作者資料集(1)』国立劇場 SEKAIN 五十音順世界別索引。SHOMEI 底本掲載順引用書目一覧。YAKMEI 役名索引。

内田保廣

曲亭馬琴作『近世説美少年録』第一輯～第三輯の本文テキスト。

吉村 誠

伊藤博校注『万葉集』(角川文庫)を基本にした漢字交じり訓読文と岡島昭浩作成の仮名書き文をセット。題詞、左注は、桜楓社の鶴久・森山隆編『万葉集』を基本にしている。

以上が、本会に登録されている機械可読テキストだが、注意していただきたいのは、このテキストの利用については、本会は会員に対してのサービスしか行っていないということである。本会は、運営委員の無償の活動によって運営されているため、会員外へのサービスまで行えないというのが実

情である。

なお、本会の会報累積版1～5号を下記の書店で販売している。御利用願いたい。

〒101 千代田区神田神保町1-7

一誠堂 tel 03(3292)0071

fax 03(3292)0095

学会カレンダー(Ver. 5.0, '92)

1992年10月4日～8日	Conference on Computational Lexicography and Text Research, Budapest Contact: Hungarian Academy of Sciences, Institute of Linguistics, Budapest, P.O. Box 19, 1250 Hungary
1992年10月8日～11日	Society for Literature and Science Annual Conference Contact: Pamela Gossin, History of Science, 601 Elm, Room 622, University of Oklahoma, Oklahoma 73019, U.S.A.
1992年10月15日～16日	ICEBOL 6, Dakota State University Contact: E. Johnson, E-mail eric@sdnet.bitnet
1992年10月26日～29日	55th AIS Annual Meeting, Information Management on the Move, Pittsburgh Hilton Contact: Dr. Julie Hurd, University of Illinois at Chicago, 3500 Science and Engineering S., Box 8198, Chicago, Illinois 60680, U.S.A.
1992年10月28日～31日	EDUCOM '92 -Charting Our Courses (Setting a National Agenda for Information Technology and Higher Education) Contact: Diane Balestri, Conference Chair, EDUCOM '92, P.O. Box 66, Hopewell, NJ 08525, U.S.A., E-mail: educom92@educom.bitnet
1992年11月20日～22日	8th Workshop on Comparative German Syntax, University of Tromso Contact: E-mail: cgs@mack.uit.no
1992年11月27日	情報処理学会「人文科学とコンピュータ」、中京大学 問い合わせ先：日本IBM（株）東京基礎研究所 （洪 政国：Tel (03)3288-8200, Fax (03)3265-4251)
1992年11月30日～12月4日	ECHT '92 (4th ACM Conference on Hypertext), Milano Contact: P. Paolini, General Conference Chair, Politecnico di Milano, Dipartimento di Elettronica, Piazza Leonardo da Vinci 32, 20133 Milano, Italy, E-mail: paolini@ipmell.polimi.it
1992年12月27日～30日	Modern Language Association (MLA) Convention, New York City Contact: P. Fortier, E-mail: fortie@uofmcc.bitnet
1993年1月4日～7日	International Workshop on Intelligent User Interfaces, Orlando, Florida Contact: Bill Hefley, Software Engineering Institute, Carnegie Mellon University, Pittsburgh, Pennsylvania 15213, U.S.A., ii-Workshop93.chi@xerox.com
1993年3月2日～3日	Hypermedia '93 (4th in a Series of Hypertext/Hypermedia Conferences held in the German-Speaking Part of Europe), Zurich Contact: Kurssekretariat, Department of Computer Science, ETH Zurich, IFW, CH-8092 Zurich, Switzerland, E-mail: hyper93@inf.ethz.ch
1993年3月5日	情報処理学会「人文科学とコンピュータ」、鳴門教育大学 問い合わせ先：日本IBM（株）東京基礎研究所 （洪 政国：Tel (03)3288-8280, Fax (03)3265-4251)
1993年4月4日～7日	ICML 93 (International Conference on Mathematical Linguistics), Barcelona Contact: Carlos Martin Vide, Universitat de Barcelona, Facultat de Filologia, Secci: de Linguistica, Gran Via de les Corts Catalanes, 585, 08007 Barcelona, Spain, E-mail: d1frcmv0@cb0ub011.bitnet

材料設計の新しい方向に関する国際シンポジウム

場所：東京大学総合図書館会議室

日時：平成4年10月26日（月） 9:50-17:00

使用言語：英語

共催：文部省科研費国際共同研究、日本金属学会、情報知識学会

協賛：（予定）先端材料技術協会、日本シミュレーション学会、形の科学会

材料の組成、配列の組み合わせは、ほぼ無限に考えることができ、未踏の材料開発の可能性が秘められているが、人類はそのほんの一部の1千万件程度を物質として識別し、さらにその一部を実用材料として活用しているに過ぎない。しかしながら、そうした着実な成果は、巨大なデータベース、知識ベースとして集積／整備され、計算機の能力の格段の向上とあいまって戦略な材料探索、材料設計への可能性と期待が高まりつつある。本シンポジウムでは、平成5年度から発足に向けて準備を進めている「材料設計・データシステム」共同研究会の方針を模索すべく、材料あるいは材料設計における普遍性、自由度、完全性、知性、規則性、類似性を論じ、新たな材料設計の方向を議論する。

9:50-10:00	開会の挨拶	東大工 中島尚正
10:00-10:50	材料設計のための普遍性	日電 大西椿平
11:00-11:30	材料のマイクロアセンブリ	東大先端研 須賀唯知
11:30-12:10	材料の完全性	住金 小西隆男
13:00-14:00	材料の知性	東大工 柳田博明
14:00-15:00	材料の規則性	ピラス金属間化合物 P.VILLARS
15:15-16:15	材料の分類	カナダ国立研 J.R.RODGERS
16:15-16:45	材料の設計科学	東大人工物工学研究センター 岩田修一
16:45-17:00	総合討論、閉会の挨拶	東大名誉教授 三島良績

（企画世話人 東大人工物工学研究センター 岩田修一、東大工 佐久間健人）

申し込み方法：電子メール iwata@kakunen.gen.u-tokyo.ac.jp または

Fax.03-5800-6855で岩田宛10月11日までご連絡下さい。

参加費：無料

総会報告事項

1 平成4年3月31日現在の決算書（平成元年4月1日より、コデータ部会分は除く）

収入の部		金額（円）	支出の部		金額（円）
科目			科目		
会費振込	賛助会員	2,579,176	会議費		797,725
	個人会員	1,579,948	振込手数料		11,433
預金利息		70,097	通信費		463,028
特別会費		6,000,000	印刷代	ニュースレタ	3,338,095
学会誌売上		40,000		学会誌	800,000
セミナー参加費		78,500		その他	677,102
その他		100	セミナー経費		536,104
小計		10,347,821	事務用品代		76,384
前年度繰越金		242,569	学会誌編集費		92,660
			講演料		121,000
			コデータ部会費		31,850
			理事会実施委託費		885,610
			小計		7,830,991
			未払い学会誌印刷代*		824,000
			次年度繰越金		1,935,399
			計		10,590,390
計		10,590,390	計		10,590,390

* 91年度学会誌印刷代未払分

2 平成4年度予算案（コデータ部会分は除く）

収入の部		支出の部		
科目	金額（円）	部門	科目	金額（円）
前年度繰越金	1,935,399	ニュースレター 編集部門	印刷代	1,080,000
会費収入	2,565,000		編集経費	48,000
		学会誌編集部門	印刷代	1,000,000
			編集経費	100,000
		企画部門	著作費	100,000
			会場費	220,000
		総務部門	講師謝礼等	200,000
			F I D 準備費	100,000
		事務局・その他	総会準備費等	100,000
			通信費	100,000
			印刷代（封筒など）	140,000
			振込手数料・雑費	10,000
			会議費	100,000
			コデータ国際会議準備費	100,000
		予備費（次年度繰越金）		1,102,399
計	4,500,399	計		4,500,399

※会費収入に関しては3月末現在の会員数を参考に算出

個人会員 195人 5000円*195= 975,000円
 賛助会員 20法人 30000円*53口= 1,590,000円
 計 2,565,000円

3 平成元年度～平成3年度の事業報告

(1) 平成元年度

①会議

- ・平成元年5月9日 18:00～21:00 第3回 理事会 於学士会館
昭和63年度の事業報告 平成元年度事業報告 会員増強策について
- ・平成元年5月23日 15:00～18:00 総会 於東大山上会館
講演：情報知識と知的所有権 名和小太郎(株)旭リサーチセンター取締役
総会：88年度収支報告、事業報告及び事業計画 懇親会

②講演会・セミナー

- ・平成元年4月1日～2日 研究集会「文字記録史料と電算機応用に関する課題と解決」 共催
- ・平成元年6月20日 10:00～18:00 研究フォーラム「タンパク質研究の新しい潮流」
後援 於東京理科大学
- ・平成元年9月7日 13:00～17:00 情報知識学会'89シンポジウム 主催
於サンシャインシティ データベース'89 TOKYO会場
- ・平成2年1月17日～18日 「1990年情報学シンポジウム」共催 於日本学術会議講堂
- ・平成2年1月19日 10:00～17:00 シンポジウム「化学における情報の現状と将来」
共催 於日本学術会議大会議室

③刊行物

- ・ニューズレター 3号 平成元年4月1日発行
4号 平成元年7月1日発行
5号 平成元年11月1日発行

(2) 平成2年度

①会議

- ・平成3年2月28日 18:00～21:20 拡大編集委員会 於東大山上会館

②講演会・セミナー

- ・平成2年7月13日 第11回テキスト・データベース研究会共催 於東京大学大型計算機センター
- ・平成3年1月8日～9日 「1991年情報学シンポジウム」共催 於日本学術会議講堂

③刊行物

- ・ニューズレター 6号 平成3年1月1日発行
- ・学会誌 1号 平成2年12月20日発行

(3) 平成3年度

①会議

- ・平成3年4月24日 18:00～21:00 第1回担当学会議 於東大山上会館
1、拡大編集委員会 2、藤原副会長担当事項ー藤原 3、総務会計関係ー根岸
再建目度が立つまで理事会・総会延期
- ・平成3年5月30日 18:00～21:00 第2回担当学会議 於東大山上会館
1、法人会員募集の件：名簿不備につき藤原氏まとめ 2、個人会員募集の件
3、編集関係：暫定連絡先ニューズレター長瀬、論文誌芦崎 4、事務局：当面凸版
- ・平成3年7月15日 18:00～21:00 第3回担当学会議 於東大山上会館
1、CODATA部会報告(田岡) 2、編集関係ー学会誌(石塚)、ニューズレター(長瀬)
3、企画：江成 事務局：凸版への引き渡し
- ・平成3年9月3日 16:00～19:30 第4回担当学会議 於凸版印刷
1、各部門報告 2、秋期セミナー実施案 3事務局引継報告
- ・平成3年11月18日 18:00～20:30 第1回運営委員会 於凸版印刷
1、各部門報告 2、秋期セミナー参加応募状況
3、論文誌編集状況 4、会計について事務局より案を提出

- ・平成3年12月17日 17:30~20:00 第4回理事会 於凸版印刷
 - 1、各部門報告
 - 2、秋期セミナー実施報告
 - 3、学会誌編集状況
 - 4、今後の運営について
- ・平成4年2月27日 17:30~20:30 第5回理事会 於凸版印刷
 - 1 CODATAの件一次田
 - 2 事務局報告：事務引継一會費納入、資産等一斎藤
 - 3 報告その他

②講演会・セミナー

- ・平成3年9月21日~22日 「歴史研究と電算機利用の可能性
ー歴史系大学院院生を主たる対象とするワークショップ」後援
- ・平成3年11月25日 13:00~16:45 秋期セミナー 於アルカディア市ヶ谷
 - 1、挨拶：米田会長
 - 2、歴史系支援情報処理研究の課題：八重樫純樹歴史民博
 - 3、文学へのコンピュータ利用：Andrew Armour 慶大文助教授
 - 4、歴史学とコンピュータ：安澤 秀一 明海大学
- ・平成4年1月8日~9日 「1992年情報学シンポジウム」共催 於日本学術会議講堂
- ・平成4年3月6日 13:00~17:00 フォーラム 於東大先端科学技術センター
 - 開会：大須賀、
 - 1、局所性と一般性の調和ー藤原鎮男
ー知識（伝統学問）と情報（学術情報処理技術）の結合
 - 2、知識ベース統合システム設計ー大須賀節雄
 - 3、構造設計知識ベースー高橋由雅
 - 4、化学反応設計ー藤原謙

③刊行物

- ・ニューズレター
 - 7号 平成3年4月1日発行
 - 8号 平成3年6月1日発行
 - 9号 平成3年8月1日発行
 - 10号 平成3年10月1日発行
 - 11号 平成3年12月1日発行
 - 12号 平成4年2月1日発行
- ・学会誌
 - 2号 平成3年12月30日発行

4 今年度事業計画

①会議

- ・平成4年9月17日 16:00~17:00 総会実施

②講演会・セミナー

- ・「1993年情報学シンポジウム」共催（平成5年1月予定）
- ・CODATA国際会議共催（平成4年10月予定）
- ・公開セミナー「地球規模の社会経済体制の変革期における社会科学文献情報検索の現状と未来」共催
（平成4年9月8日、11日 於国際文化会館講堂、京大附属図書館視聴覚講堂）
- ・研究会「コピーライト・シンポジウム」主催（平成4年12月10日開催予定）
- ・「材料設計の新しい方向に関する国際シンポジウム」共催（平成4年10月26日予定 於東大総合図書館会議室）
- ・「第1回人工物工学シンポジウム」協賛（平成4年11月26日、27日予定 於新宿センタービル52階会議室）
- ・「情報化月間に関する勉強会」共催（平成4年10月予定）
- ・その他各種フォーラム、セミナー開催予定

③刊行物

- ・ニューズレター 13号~18号発行予定
- ・学会誌 3号発行予定

5 新役員

会長	米田 幸夫	東海大学 教授
副会長	藤原 譲 月見里禮次郎	筑波大学 教授 凸版印刷 相談役
現理事	有川 節夫 石塚 英弘 岩田 修一 開原 成允 加藤 嘉則 黒沢 慎治 田中 和明 菅原 秀明 高橋 靖明 田隅 三生 中山 堯 名和 小太郎 根岸 正光 松田 芳郎 三浦 勲 安澤 秀一	九州大学 教授 図書館情報大学 助教授 東京大学 教授 東京大学 教授 藤倉電線 所長 明光証券 部長 日立製作所 理化学研究所ライフサイエンス情報室長 凸版印刷 本部長 東京大学 教授 神奈川大学 助教授 新潟大学 教授 学術情報センター 教授 一橋大学 教授 紀伊國屋書店 常務取締役 明海大学 教授
新任理事	芦崎 達雄 次田 皓 長瀬 真理 小山 照夫 中嶋 二一 藤代 一成 (未定)	日本科学技術情報センター 東京理科大学 教授 城西国際大学 助教授 学術情報センター 教授 奈良大学 教授 お茶の水女子大学 助教授 大日本印刷株式会社
現監事	宍戸 駿太郎	国際大学 学長
新任監事	藤原 鎮男	神奈川大学 教授 (現理事)

6 その他

<会員数の件>

①情報知識学会本体

	平成4年3月31日現在	平成4年9月11日現在	備考
個人会員	195人	208人	13名増加
賛助会員	20法人 53口	20法人 53口	増減無し

②コデータ部会

	平成4年3月31日現在	平成4年9月11日現在	備考
会員	45人	45人	増減無し

以 上

平成4年8月28日
情報知識学会事務局

コデータ部会決算書

平成元年4月1日から平成4年3月31日迄（平成元年度から平成3年度）

収入の部		支払の部	
科目	金額（円）	科目	金額（円）
平成元年度会費収入	62,000	通信費	26,278
平成2年度会費収入	80,000	アルバイト料	9,975
平成3年度会費収入	78,000	雑費	3,893
CODATA書籍購入代金	28,535	CODATA書籍購入作業	28,535
岡崎国立協同研究機構より援助金	3,584,000	田隅研究室へ援助金送金	3,584,000
		CODATA学会会費	57,220
		日本コデータ調査票発送作業	19,365
		事務費（コピー代）	3,160
		小計	3,732,426
		次年度繰越金	100,109
計	3,832,535	計	3,832,535

コデータ部会平成4年度予算案

収入の部		支払の部	
科目	金額（円）	科目	金額（円）
前年度繰越金	100,109	通信費	15,000
平成4年度会費納入＊	90,000	CODATA学会会費	30,000
CODATA書籍購入代金	10,000	CODATA書籍購入作業	20,000
		小計	65,000
		予備費（次年度繰越金）	135,109
計	200,109	計	200,109

＊現在の会員45名より 部会費2,000円＊45名＝90,000円

情報知識学会誌Vol.2が発刊されました。

巻頭講演

情報社会の生態学.....長尾 真

講演

歴史系支援情報処理研究の基礎的課題.....八重樫純樹

論文

S GML形式による学会誌全文データベースの構築と印刷.....石塚英弘

木版刷チベット文献の文字自動認識の試み.....小島正美, 川添良幸, 木村正行

Interface Developments to Distributed Materials Data Systems(1)

.....Hailong Chen and Shuichi Iwata

Learning and Analogical Reasoning in the IBS for Organic Synthesis Research

.....Zhong Qing Wang, Si Qing Zheng, Xu Yu,

Kazunori Yamaguchi, Hiroyuki Kitagawa, Nobuo Ohbo, and Yuzuru Fujiwara

解説

コンピュータ時代の数学教育.....杉山真澄

A B S T R A C T S / 要約

役に立つミニ情報

中国における電子メールとネットワーク

人文学の研究者同士の交流を図る為、中国に電子メールを用いたディスカッション・グループが出来ました。興味のある方は下記にアクセスしてみてください。

chinanet@tamvm1.bitnet

listserv@tamvm1.bitnet

さらに、アメリカと中国のジョイントで教育に関するカンファレンスが、今秋11月8日～16日中国の北京で開かれます。議題は世界のオンライン化と研究者同士のネットワーク化についてです。詳細は下記にアクセスして下さい。

Emie Anderson

gcand@educ.umass.edu

『第一回人工物工学シンポジウム』のご案内

現在、高度大量生産システムの急速な発展により、工学が作り出す大量の人工物は地球環境を変化させる程に地球に満ちあふれ、極めて大きな影響力をもつようになりました。

一方これまでの工学は、産業・製品分野に応じて対象領域を細分化し、各領域に最適な手法を開発し確立することを目的として発展してきました。このような領域別の細分化は、その領域固有の学問や技術を発展させる上では確かに有効な手段でしたが、昨今の経済力の成長に伴う産業構造の変化や、社会・経済および環境問題のグローバル化に起因する領域の境界が複雑に絡み合った状況に対して、工学領域の細分化が、柔軟な対応を困難にしていることも事実です。

例えば、前述の環境問題ひとつを取り上げても、従来の細分化した工学を単に寄せ集めただけでは有効な問題解決手段を提供することが不可能となっていますし、貿易摩擦問題にしても全く同様です。

そこで私たちは、経済問題・社会問題・資源問題のそれぞれに対して総合的な視点から対処する手法を確立するには、産業や製品別の特徴を超越して、創造的な新しいタイプの人工物を創造し運用する一般理論の体系化を目指した工学の発展が必要であると考え、それを「人工物工学」と名付けました。

今回ご案内申し上げます「第一回人工物工学シンポジウム」は、この「人工物工学」が必要とされる背景とその目指すべき将来について、さまざまな角度から議論することを目的として企画されました。

何卒、多くの方々のご出席をお願い申し上げます。

記

- 日 時 : 1992年 11月26日(木)、27日(金)
- 会 場 : 新宿センタービル 52階会議場(大成建設所有)
- 主 催 : 文部省科学研究費 新プログラム
「工学を総合化する知的人工物に関する研究」グループ
東京大学人工物工学研究センター
- 後 援 : 東京大学工学部
- 協 賛 : 日本機械学会 精密工学会 日本原子力学会 日本造船学会
(予定) 情報処理学会 人工知能学会 日本金属学会 日本鉄鋼協会
情報知識学会 日本シミュレーション学会 形の科学会
- シンポジウム参加費 : 5000円

懇親会(同時開催)

- 日 時 : 1992年11月26日(木) 18:00~20:00
- 会 場 : 新宿センタービル(会場は当日お知らせいたします)
- 懇親会参加費 : シンポジウムに参加される方は 無料
シンポジウムに参加されない方は 4000円

※ 参加のお申込みは、別途「参加申込書」に必要事項をご記入の上
11月10日(木)までに、郵送またはFAXで当センター宛に
ご送付ください。

お問い合わせ先、お申込み先

〒113 東京都文京区弥生2-11-16
東京大学人工物工学研究センター

吉村 忍 TEL 03-3812-2111 ext. 6960
(シブ'ジウム担当) FAX 03-5800-6876

久保田晃弘 TEL 03-3812-2111 ext. 6556
(広報担当) FAX 03-3815-8360

情報知識学会通信

情報知識学会に入会をご希望の方は、このフォームをコピーして必要事項を御記入の上、事務局に郵送、又はFaxで御送り下さい。折返し入会案内、入会申し込み書等の書類をお送り致します。(現在入会金は1,000円、年会費は5,000円です。)なお現在ニューズレターがあります。ご希望の方はお知らせ下さい。

Fax: 03 (3839) 6061

〒101 東京都千代田区和泉1番地(凸版印刷内)

情報知識学会事務局 担当 斉藤 行

情報知識学会に入会したいので必要な書類を御送り下さい。

個人用 法人用 (どちらかを丸で囲んで下さい)

住所: 〒

(〒がナ)

氏名:

電話:

Fax :

編集後記:

初秋の風が心地よい爽やかな季節になりました。総会も無事終り『情報知識学会』の新たな歩みが始まりました。「I&Kニューズ」の原稿もよろしくお願いします。(長瀬)